

岩手医科大学附属病院

正面入口

贈
花巻農業高等学校
環境科学科緑化系列

主な内容

新年のご挨拶

特集——がんセンター県内のがん診療を牽引

トピックス——感染症対策センター整備工事の起工式が挙行されました

募金状況報告

フリーページ——すこやかスポット医学講座No.104

「経食道心エコーガイドで行う

経カテーテル心臓病治療の最前線」

表紙写真：附属病院正面玄関入口に設置された門松（関連記事P.11）

新年のご挨拶

理事長 小川 彰



新年あけましておめでとうございます。

ご家族ともどもご健勝にて新年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

さて、本学は大学病院移転と新型コロナウイルス蔓延が重なり、2年前より経営状況は大幅に悪化しました。この危機的状況の中、教職員一丸となった「経営改善」努力の協力をお願いしたところです。「従来常識だった業務ルーチンの見直し」「無駄の排除」「可能な限りの機器・システム整備の先送り」「研究費からの光熱水費の負担」「県民への啓蒙を通じた外来・入院患者の確保」等々、各部門で様々な取り組みをして頂き、令和3年度の決算は予算比約16億円の経営改善ができる見込みです。お一人お一人、部署毎のご努力に感謝申し上げます。

医学部を有する大学の約半数が何らかの給与あるいは賞与カットを実施している中、本学は一切給与・賞与に手を付けることなく過ごすことが出来ました。

しかし、将来を見据えますと経営状況は心配ないレベルまで改善している訳ではありません。大学病院本院の新築・移転のための借入金の返済は予定通り進んでいます

が、内丸再開発（内丸メディカルセンター新棟建築・歯科医療センター整備）のための年20億円の積立は、平成30年から2年間のみで、経営状況から令和2年以降の積立は中断しています。一方、歯学部・歯科医療センターの旧循環器医療センターへの移設は令和4年度の基本・実施設計を皮切りに本格化し、令和8年度には新歯学部・歯科医療センターを稼働させる予定です。

皆様には、大変な経営改善努力をお願いしているところですが、内丸校舎の老朽化は急激に進んでおり、内丸3・4号館の外壁は一部タイルが剥離するなど危険な状況も見受けられております。近未来に解体する建物に、多額の修理費用を充てるわけにはゆかず、ネットで緊急に対処している状況です。矢巾キャンパスを維持し、内丸再開発を進め、安定的な大学運営を可能にするためには、現在に加え内丸再開発のための年20億円の積立を可能とする必要があります。皆様には、この状況をご理解いただき、更なる経営改善努力をお願い申し上げます。次第です。



学 長 祖父江 憲治

明けましておめでとうございます。令和四年の新たな幕開けを、皆様方におかれましては御家族共々健やかに迎えられましたことと、お慶び申し上げます。

一昨年より猛威を振るっておりました新型コロナウイルス感染症は、我が国では第5波が急速に終息し、世界各国が羨む状況でしたが、ここに来てオミクロン株という新たな変異株が瞬く間に世界中に拡散し、我が国では防疫に向けるまさに水際の攻防が続いています。日本では個人レベルでのコロナ対策が相当に浸透し、「手洗い・うがい・マスク着用」はほぼ日常習慣に近い程となりました。第5波がすみやかに終息した一因は、「手洗い・うがい・マスク着用」という身近な日常習慣の獲得によるものかも知れません。事実、この身近なコロナ対策が、冬の年中行事のようになっていたインフルエンザ流行を見事に抑制しているようです。我々は感染防御の基本に立ち返り、この身近な日常習慣の獲得から維持、さらに緊張感を持った生活を送るべく心掛ける必要があります。

本学では附属病院敷地内にコロナ感染症重症患者に対応するため、県の支援により「感染症対策センター」（感染防御のため附属病院の別棟として）を建設中です（4月運用開始予定）。感染症対策センターを中心に、県内各医療施設と連携しコロナ対策を行ってまいります。

コロナ禍で、医・歯・薬・看護学部の学生教育につきましては対面講義を基本とし、必要に応じてWebによるオンライン講義も併用してきました。実習におきましても、全学部とも本学での実習は予定通り遂行し、学外実習については中止せざるを得ない場合のみ代替実習を行うなど、学生諸君の学修に極力支障を来たさないよう対処してまいりました。これが完遂できました

のも、教職員の皆様方の並々な御尽力のお陰であり、改めて御礼申し上げます。

昨春の医・歯・薬・看護学部の国家試験は概ね好成績でした。これは学生諸君の頑張りと教職員の皆様の大変な御努力により成し得たもので、皆様方の熱い情熱に深謝致しております。間もなく、今春の国家試験シーズンに入ります。より多くの学生諸君が関門を突破し、医療人として最前線で活躍してくれる事を願っております。

附属病院が開院して2年数カ月、附属病院と内丸メディカルセンターが相互補完し役割分担を果たす体制が、少しずつ形を成し、近在の皆様にも認知されつつあります。しかしまだ端緒についた所で、現状ではまだまだ充分とは言えず、新たな仕掛けを模索しつつ、両病院が岩手・北東北・東北の医療拠点として役割を果たすべく努力してまいります。殊に、内丸メディカルセンターの新改築は喫緊の課題であると考えております。

今後の本学の発展にとって重要な課題は人造りです。これ迄に何度も申し上げてきたことですが、本学の将来を担う人造りです。各講座・研究部門で優秀な教育スタッフが充実してきており、教育・診療・研究での活躍を期待しています。これらスタッフは、学部教育から卒業後教育までを担当しています。殊に、医学部と歯学部では医師・歯科医師の卒業後教育において、いかに多くの若い医師・歯科医師が集うかが大学の力を左右する現実的な問題です。全国の臨床研修医・歯科研修医と専門研修医の希望者に対して、魅力ある職場環境と各医局・講座さらに大学の情報発信が重要と考えています。本学のみならず他大学からも多くの医師・歯科医師が集まってくれる輝く大学造りに努めましょう。

特集

がんセンター 県内のがん診療を牽引

本学附属病院は、県内のがん診療を牽引する都道府県がん診療連携拠点病院の中核組織として、質の高いがん医療を提供しています。

本号では、その重役を担うがんセンター内に設置されている4センター3室の役割や取り組みを紹介します。



はじめに



がんセンター

伊藤 薫樹 センター長
(内科学講座血液腫瘍内科分野 教授)

がんセンターは、がん医療の充実を図るため、平成19年7月に「腫瘍センター」として開設され、令和元年の新病院移転を機に「腫瘍センター」から「がんセンター」に改称しました。

現在、当センターは「がん診療センター」「化学療法センター」「緩和ケアセンター」「がん登録室」「がん診療連携室」「がん相談支援センター」「がんゲノム室」の4センター3室に加え、「放射線治療部門」「病理診断部門」「医科歯科連携部門」「リハビリテーション部門」「栄養部門」「薬剤部門」「看護部門」「事務部門」のエキスパートが集まり、診療科・職種横断的なチーム医療を進め、「患者さん中心の優しいがん医療」の提供を目指しています。また、当センターは、県内のがん診療を牽引する都道府県がん診療連携拠点病院の中核組織として、地域におけるがん診療連携の円滑な実施を図るとともに、質の高いがん医療の提供体制確立に努めています。

その他、がん患者さんご家族への精神面のサポートを目的とした「がん患者・家族サロン」を設置し、体験者どうしで悩みや不安を話し合ったり、専従スタッフが病気や治療についての皆さんの知りたい情報を探してお手伝いをしております。

各室紹介

令和3年4月に新設された「がん診療センター」を含め、がんセンター内に4センター3室が設置されています。各室の取組内容とセンター長・室長をご紹介します。

■ がん診療センター（新設）

令和3年4月に設置された当センターは、「都道府県がん診療連携拠点病院」として、地域の医療機関と連携して、各診療科・部門を中心に患者さん本位の専門性の高い総合的ながん診療の提供に努めています。一方、近年のがん診療の進歩は著しく、新しい治療法や抗がん薬が次々と開発され臨床に应用されています。また、医薬品の効果や副反応を事前に予測するために行われるコンパニオン診断や、がんに関連する多数の遺伝子変化を同時に解析するがん遺伝子パネル検査が実用化されてきました。これらの新しい検査方法を用いて、一人一人のがんの遺伝子変化（がんの個性）を明らかにし、患者さんにより適した治療などを行うがんゲノム医療が本格的に始まりました。がん診療センターでは、このような治療の多様化にも対応するために、次の活動を行っています。



板持 広明 センター長
(臨床腫瘍学講座 教授)

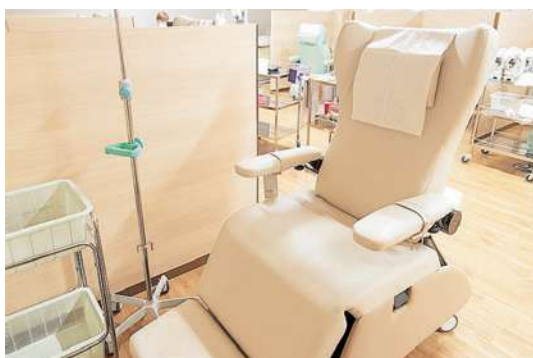


がん診療連携拠点病院の医師らが参加するがん診療連携会議の様子

- ①各診療科・部門が連携した臓器横断的で総合的な治療
- ②がん薬物療法（いわゆる抗がん剤治療）や放射線治療との併用療法
- ③手術療法や術前・術後のがん薬物療法
- ④がんの個別化医療やがんゲノム医療（がんの遺伝子情報に基づく治療）の推進
- ⑤がん診療連携会議（多診療科・多職種による症例検討会）によるがん診療の総合的検討

■ 化学療法センター

外来でのがん化学療法を希望する患者の生活の質の維持と向上を目指し、全ての診療科が使用することができるがん化学療法専用の通院治療室です。附属病院移転後、リク



電動リクライニングチェアが設置された化学療法センター

ライニングチェアが30台と増床し、テレビや雑誌、DVDプレーヤーが完備されるなど、個人の空間を大事にし、治療中の患者さんの苦痛を少しでも和らげられるよう工夫をしています。また、がん化学療法に精通した医師、看護師、薬剤師を配置し、日常生活を送りながら外来で治療が行えるよう安全かつ安心できる体制を整備しています。



前門戸 任 センター長
(内科学講座呼吸器内科分野 教授)

■ 緩和ケアセンター 緩和ケアチーム室

平成19年から専門スタッフがチームを組み、緩和ケアチームの活動を開始しています。緩和ケアチームとは、痛みをはじめとするつらい症状の緩和や、こころのケアを行う専門チームです。主治医や看護師と共同し、多職種で患者さんやご家族を支援します。

この緩和ケアチームが礎となり、がん患者さんご家族の生活の質（QOL）の向上を目指して平成27年4月に緩和ケアセンターが開設しました。当センターは現在、中心となる「緩和ケアチーム」をはじめ、「緩和ケア外来」「緩和ケア病棟」が一体となり、「切れ目のない緩和ケア」の実践にあたっています。私たちは、がん患者さんのみならずご家族等の、体のつらさ、心のつらさ、生活のつらさ等、様々なつらさを和らげるためのお手伝いを多職種が集うチーム医療で対応しています。

そのほか、がん等の診療に携わる医師等に対し、がん等と診断された時から痛みをはじめとした苦痛に対する緩和ケアの知識、技術を修得し実践できるよう、がん診療連携拠点病院等において、厚生労働省から示された指針に基づき緩和ケア研修会や地域の緩和ケアの充実と均てん化を図ることを目的とし、緩和ケア・テレカンファランスを開催しています。



緩和ケア病棟



スタッフの皆さん



木村 祐輔 センター長
(緩和医療学科 特任教授)



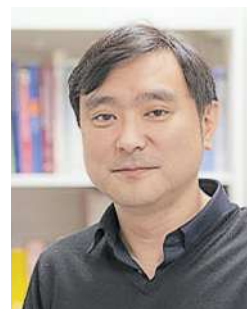
鴻巣 正史 室長
(緩和医療学科 講師)

■ がん登録室

がん登録室では、厚生労働省が定めるルールに基づき、がんと診断された全ての患者さんの診断・治療・経過などに関する情報を登録しています。登録は、認定資格を有する職員が行い、平成19年4月の登録開始から今年で14年目となります。登録した情報は、院内におけるがん診療の状況把握や研究等への補助情報として活用されています。また、登録した情報の一部は国への提出が義務付けられており、国のがん対策にも役立てられています。



情報登録の様子



西塚 哲 室長
(医歯薬総合研究所
医療開発研究部門 特任教授)

■ がん診療連携室

令和元年9月の附属病院移転に際し、新たに矢巾附属病院と内丸メディカルセンターの両院に設置された患者サポートセンターの地域医療連携部門の一部として業務を行っています。主な業務として、紹介患者様の受付、セカンドオピニオンの受付、地域連携パス（胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、前立腺がん）の対応を行っています。



がん診療連携室が設置されている患者サポートセンター



小原 航 室長
(泌尿器科学講座 教授)

■ がん相談支援センター

がん医療に対する患者さんご家族の不安と信頼できる情報が欲しいという要望から生まれた、全国のがん診療連携拠点病院に設置されている相談窓口です。①どなたでも無料で利用でき、②相談員が信頼できる情報を探し、③相談者に寄り添い困りごとを一緒に考え、解決できるように支援し、④医師、看護師等と相談者の橋渡しを行う場です。当院では附属病院1階患者サポートセンター内に設置されています。



患者サポートセンター受付パネル



大塚 幸喜 センター長
(外科学講座 准教授)

■ がんゲノム室

当院は、県内唯一の「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、「がんゲノム医療」として、がんゲノム検査の一部を保険診療にて行っております。従来がん治療は、概ねがんの種類で決まっておりましたが、「がんゲノム医療」によって、がんの種類よりも遺伝子の変異が治療の根拠となることがあります。



エキスパートパネルの様子

当室では、がんゲノム検査によって得られた遺伝子解析結果を元に、医師や遺伝カウンセラーなど各専門家による検討会（エキスパートパネル）を行い、最適な治療方針を患者さんにご提案いたします。



菅井 有 室長
(病理診断学講座 教授)

がん患者・家族サロン

岩手医科大学附属病院のがん患者・家族サロンはがん患者およびその家族に対する精神面を中心としたケアの充実を目的とした場所です。岩手医科大学附属病院での治療の有無に関わらずどなたでも無料で利用できます。

■ よろず相談

がん患者・家族サロンは「患者や家族同士で気軽に不安や悩みを語り合い、元気になれる場が欲しい」という患者さんの「声」から生まれました。専従スタッフや患者会のボランティアが患者さん及びそのご家族の生活の質（QOL）の向上のため親身になって相談に乗っていただけます。辛い治療中の患者さんを元気づけたいと患者会など様々な方からコットン帽子や折り紙など寄付があり、それを橋渡しています。

がんに関する疑問や相談については看護師、薬剤師、栄養士、医療相談員（医療ソーシャルワーカー）等専門の医療者が、日替わりでお受けします。サロンの専従スタッフがゆっくりとお話を伺いながら、必要に応じた職種にお繋ぎします。



親睦の場（がん患者・家族サロン内）



コットン帽子の相談対応

■ 情報公開

患者さんとそのご家族の皆様にも少しでもお役に立てていただくため、図書コーナーを設けています。一般の方向けの病気に関する図書（闘病記も含む）や雑誌を診療科別に配架し、自由に閲覧でき貸出も行っています。また、国立がんセンターから各種のがん冊子やがん治療中の食事のヒントやレシピの冊子、がん治療と仕事を両立するためのQ & A、がん治療の医療費についての冊子等もたくさん取り揃えています。

ウィッグ・ケア帽子、補正下着など様々なパンフレットも準備しています。病気について調べたい方や分からないことがありましたら、ぜひお立ち寄りください。



がん情報冊子



図書コーナー

■ 対話カフェ



がんセンターでは、コロナ感染拡大に伴い、がん患者さんとそのご家族に対するがん関連情報が十分に発信されていないことを踏まえ、これまでがんセンターが取り組んできた医師との「対話カフェ」に代わるコンテンツを収録して、最新情報をご案内し、がん患者さんやご家族に広く周知を図ることを目的とし、岩手医科大学公式 YouTube チャンネルに動画を掲載しています。全8回を予定し、既に第7回までの動画を掲載しています。皆さま、是非ご覧下さい。



動物慰霊祭が行われました

11月1日(月)、大堀記念講堂において、第54回動物慰霊祭が執り行われ、祖父江学長をはじめとする教職員のほか、医・歯・薬学部の学生約250名が参列しました。

式では、昨年度教育及び研究に供された動物に対する黙祷の後、祖父江学長並びに医学部3年大貫雅人さんから慰霊のことばが捧げられました。続いて、弘瀬動物研究センター長から挨拶があり、慰霊祭が終了しました。

式終了後、参列者は慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



医学部3年大貫さん 慰霊のことば

久慈市立長内中学校の進路研修が医療専門学校で行われました

11月4日(木)、久慈市立長内中学校の生徒8名がキャリア教育を目的とした進路研修で医療専門学校を来学しました。

当日は、鈴木教務主任が中心となり学校紹介、施設見学、実技体験を行いました。

研修会終了後、生徒からは「普段の学校生活では得られない貴重な経験ができ、進路に対して高い意識を持つことができました」と感謝のことばがありました。将来の進路を決めるための有意義な機会となったようでした。



虫歯予防処置体験

医学部白衣授与式が挙行されました

11月5日(金)、大堀記念講堂において、医学部第4学年106名を対象とした白衣授与式が挙行されました。この式は、臨床実習においてスチューデント・ドクターとして臨床の場に第一歩を踏み出す学生に白衣を授与することで、医師としての心構えをする節目の式典です。

式では、祖父江学長及び佐々木医学部長から激励のことばがありました。続いて、学生を代表して小野寺博紀さんは「附属病院の理念である「誠の精神に基づく、誠の医療の実践」をここに誓います」と力強く宣誓しました。

白衣を授与された学生たちは、これから始まる臨床実習に向けて医師の道を歩む決意を新たにしました。



白衣を授与された学生ら

ボイラー安全祈願祭が行われました

11月8日(月)、エネルギーセンターにおいて、ボイラー安全祈願祭が行われ、理事長をはじめ本学関係者約10名が出席しました。

当日、神官による神事では、祝詞奏上、清祓いの後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

なお、令和3年度のボイラーデースローガンは「気を抜くな 慣れた点検 潜む事故」です。



安全祈願

附属病院患者給食への「矢巾町産のお米（銀河のしずく）」 使用の取組について記者会見が行われました

11月9日（火）、大堀記念講堂において、矢巾町で生産された岩手県のブランド米「銀河のしずく」を患者給食として使用していることについて、栄養部が記者会見を行いました。

会見には、佐々木栄養部長をはじめ管理栄養士、調理師の計5名が会見に臨み、取り組みや患者さんからの意見を紹介しました。「銀河のしずく」を提供しているJAいわて中央の浅沼清一代表理事組合長、本学附属病院とJAいわて中央を取り次いだ矢巾町の高橋昌造町長も出席されました。

患者さんからは「噛めば噛むほど味が良い」「凄く美味しいお米」と好評で佐々木栄養部長は「矢巾町で収穫した美味しいお米を患者さんに食べてもらい元気になってほしいという構想があった」と述べられました。



左から：川村主任調理師、下村主任調理師、金野管理栄養士、
佐藤主任管理栄養士、佐々木栄養部長

株式会社マツキヨココカラ&カンパニー 奨学金授与式が举行されました

11月11日（木）、東研究棟1階会議室において、株式会社マツキヨココカラ&カンパニーから本学薬学部学生への東日本大震災津波復興支援および地域に貢献できる優秀な薬剤師を育成することを目的とした、奨学金授与式が举行されました。

式では、薬学部5学年石崎仁鵬（いしざきのりたか）さん、高田赳（たかだたける）さん、谷有希菜さんに対し奨学金が授与され、株式会社マツキヨココカラ&カンパニーの小部真吾取締役と同社に入社した本学部卒業生であり奨学金受給者であった高橋健太さんから激励のことばが送られました。学生からは、奨学金受給に対する感謝の気持ちと奨学生として決意が述べられました。



左から：河野薬学部長、石崎さん、高田さん、谷さん、小部取締役

感染症対策センター整備工事の起工式が 举行されました

11月12日（金）、附属病院の敷地内にある感染症対策センター建設予定地において、「感染症対策センター整備工事起工式」を举行しました。

当日は、小川理事長をはじめとした本学関係者や岩手県、矢巾町、工事関係者等約30名が出席し、工事の無事を祈願しました。

センターの詳細は大学ホームページをご確認ください。



起工式会場



式場の様子



小川理事長による鉄入れ

ロジスティクス研修会が行われました

11月18日（木）、災害時地域医療支援教育センターで岩手災害医療ロジスティクス研修会が行われました。県内の病院に勤務している13名が受講し、災害医療支援チームにおける業務調整員としての役割や情報収集の手法・伝達手段の習得等について学びました。

また、11月19日（金）には、同会場で岩手DMATロジスティクス研修会が行われ、岩手県内のDMAT隊員9名が受講しました。ロジスティクス技術・知識の向上、連携の強化を目的とし、災害発生時に設置する各種本部内における関係機関との調整方法や、病院支援・SCU内活動等で必要とされるロジスティクススキルを実践に沿った形でブラッシュアップしました。

長時間にわたる研修でしたが受講者の方々は最後まで熱心に取り組んでいました。



災害現場にて活動に必要な情報を収集する受講者

災害看護研修会が行われました

11月29日（月）、災害時地域医療支援教育センターにおいて、看護部災害看護委員会が主催している令和3年度災害看護研修会が行われました。

今年の研修は、被災者・援助者支援を理解することを目的とされ、神経精神科学講座の大塚教授（岩手県こころのケアセンター副センター長）および災害・地域精神医学講座、岩手県こころのケアセンターが講義を担当しました。

当日は、昨年に引き続き、フリッカーを使用して双方向対話型の講義に加え、避難所や仮設住宅訪問での架空事例をもとに、KTYシートを用いたリスクアセスメントをグループワークで行いました。また、地域の感染対策を講じた相談体制の場を模倣し、見学していただく等、参加者は災害看護について理解を深めました。



地域の相談体制見学

いわて東北メディカル・メガバンク機構学内報告会が行われました

12月2日（木）、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインにて第7回いわて東北メディカル・メガバンク機構学内報告会が行われ、祖父江学長をはじめ、教職員約40名が参加しました。



開会挨拶をする祖父江学長

事業概要報告 「第三段階の進捗状況と今後の展開」

佐々木 真理 機構長



研究成果報告 「地域住民コホート調査 ～これまでの成果と詳細三次調査の進捗状況～」

丹野 高三 部門長
(臨床研究・疫学研究部門)



研究成果報告 「ゲノムオミックス解析の進捗と今後の研究シーズ ～学内共同研究の推進に向けて～」

清水 厚志 副機構長
部門長
(生体情報解析部門)



閉会挨拶

平 英一 医歯薬総合研究所長



当日は佐々木機構長らから、事業の進捗状況や研究成果についての報告が行われました。今後、同機構では、中核的取組を発展させていくとともに、他事業等との連携をさらに深め、日本のゲノム医療研究を支える開かれた基盤としてさらなる発展を目指します。

新型コロナウイルスワクチン接種の取組に対し 盛岡市から感謝状が贈られました

12月20日（月）、盛岡市の谷藤裕明市長が本学を敬訪問し、令和3年5月31日から内丸メディカルセンターで行われた盛岡市民に対する新型コロナウイルスワクチン個別接種や集団接種会場への医療従事者派遣等の取組に対し、盛岡市から感謝状が贈られました。

感謝状贈呈式には、小川理事長と下沖内丸メディカルセンター長が出席し、谷藤市長から「本市の新型コロナウイルスの感染防止対策に大きく貢献していただいた」と感謝の意が表され、小川理事長に感謝状が贈呈されました。



感謝状を受け取る小川理事長

岩手県立花巻農業高校から門松が贈られました

12月22日（水）、岩手県立花巻農業高校環境科学科の生徒から附属病院に門松が贈られました。

花巻農業高校環境科学科では、毎年、造園技術を学ぶ授業の一環で門松作りに取り組んでいるとのことであり、昨年度から続くコロナ禍において、医療従事者の方々への感謝の気持ちを込めて本学附属病院に寄贈していただきました。

小笠原病院長は「寄贈の趣旨に添うよう医療従事者及び来院者にご覧いただけるよう正面入り口に設置させていただく。引き続き、県民の医療を守り質の高い医療を提供していく」と感謝状を贈りました。

この門松は1月14日（金）まで飾られました。



花巻農業高校の生徒との集合写真

附属病院と内丸メディカルセンターで クリスマスのサプライズイベントが行われました

12月24日（金）、附属病院と内丸メディカルセンターにおいて、クリスマスのサプライズイベント「サンタさんが附属病院・内丸メディカルセンターにやってきた！」が行われました。

このイベントは、日々不安を抱えている人々に安心感とワクワク感をプレゼントしたいと、昨年に続き（附属病院は初めて）開催されました。

附属病院では外科学講座の新田教授と武田助教、内丸メディカルセンターでは脳神経外科学講座の西川講師がサンタクロースに扮して登場し、看護部が一つひとつに手書きしたクリスマスメッセージシールの貼られた個別包装のマスクを外来に訪れた方々にプレゼントしました。

マスクを受け取った方々は、サンタクロースからのサプライズに驚きながらも笑顔で応じ、クリスマス気分を味わったようでした。



附属病院1階エントランス



歯科医療センター1階受付前

外科学講座の片桐 弘勝 講師が 外科侵襲とサイトカイン研究会で会長賞を受賞しました

この度、第27回外科侵襲とサイトカイン研究会から令和3年度会長賞という大変名誉ある賞を「肝臓手術におけるMuse細胞動態とその意義」の演題で受賞しました。

同研究会は、外科侵襲に関する病態についてサイトカインを中心に検討する会として発足し、近年ではサイトカインに留まらず様々な指標やバイオマーカーを中心に多様な研究を発信する歴史と伝統ある会です。

当教室では、マウス肝切除後に移植したMuse細胞が損傷部特異的に集積し肝組織を構成する各細胞に分化することを報告していました。今回の研究は、ヒト肝臓手術におけるMuse細胞動態を明らかにし、Muse細胞と侵襲度および肝再生との関連について検証したものです。この仕事は、主に外科侵襲学を専攻する大学院生の菊地晃司先生の研究であり、Muse細胞研究の発展に寄与するものと期待しています。本邦の外科侵襲学の礎を築いた先人が多く名を連ねる会において、このような名誉ある賞を受賞したことに大きな意義を感じています。この場において、研究指導頂いています内科学講座消化器内科肝臓分野の鈴木悠地助教、このような貴重な機会を与えて下さった外科学講座の佐々木章教授、新田浩幸教授に心より感謝申し上げます。
(文責：外科学講座 講師 片桐 弘勝)



補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野の深澤 翔太 講師が 日本口腔インプラント学会で奨励論文賞、日本デジタル歯科学会で学術奨励賞を受賞しました



深澤講師、近藤教授

この度、令和3年度日本口腔インプラント学会奨励論文賞、日本デジタル歯科学会第2回学術奨励賞を受賞しました。

本論文のテーマは、インプラント治療を想定した、口腔内スキャナーによる印象採得（型取り）の精度を検証しています。口腔内スキャナーは、口の中の型取りを光で行う新しい装置ですが、型取りが苦手な患者に多い嘔吐反射を抑制する有効な装置となっており、患者の苦痛を軽減することができます。インプラント治療においては、精度の高い型取りが求められますが、本研究より口腔内スキャナーはインプラント治療において、精度の観点から少数歯欠損であれば臨床応用可能であることを明らかにしています。今後も研究成果を積み重ね、研鑽を積んでいく所存です。

最後に、御指導して頂いた補綴・インプラント学講座の近藤尚知教授、共同著者の先生方ならびに、本研究の遂行にご尽力いただきました諸先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

(文責：補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野 講師 深澤 翔太)

泌尿器科学講座の五十嵐 大樹 助教が 日本泌尿器腫瘍学会で学術奨励賞を受賞しました

令和3年10月23日～24日に横浜市で開催された日本泌尿器腫瘍学会第7回学術集会において、『術前化学療法を行った筋層浸潤性膀胱癌における腫瘍微小免疫環境の検討』の演題で研究発表を行い、学術奨励賞を頂くことができました。

切除可能な筋層浸潤性膀胱癌に対しては術前化学療法ならび根治的手術が標準治療とされていますが、抗がん剤治療前後で腫瘍微小免疫環境の変化に着目した研究は多くありません。本研究は、がん研有明病院ならび国立がん研究センターで学ばせて頂いた蛍光多重免疫染色法により腫瘍微小免疫環境を評価し、治療前の腫瘍微小免疫環境と術前化学療法の奏効性との関連や治療前後の腫瘍微小免疫環境の変化について報告致しました。本研究成果により、腫瘍微小環境を構成する免疫細胞と術前化学療法の奏効性に関連性があり、バイオマーカーになり得る可能性が示唆されました。

本研究は、術前化学療法だけでなく、現在も適応拡大を続けている免疫チェックポイント阻害剤を用いた新たな治療戦略の基盤となる可能性があり、今後も継続して泌尿器腫瘍の腫瘍微小免疫環境の研究を行いたいと考えます。最後に、本研究におきましてご指導頂きましたがん研有明病院北野滋久部長、国立がん研究センター中面哲也先生、泌尿器科学講座小原航教授をはじめとする多くの方々に深く感謝申し上げます。
(文責：泌尿器科学講座 助教 五十嵐 大樹)



表彰の栄誉

病理学講座病態解析学分野で大学院歯学研究科を修了した森（後藤）弓里子 博士が 歯科基礎医学会ベストペーパー賞を受賞しました



入江教授、森博士

この度、令和3年10月18日に歯科基礎医学会にて毎年選考されるベストペーパー賞を受賞しました。本賞は、Journal of Oral Biosciencesに前年度（令和2年度）に掲載された学術論文の中から優れた学術論文に対して贈られる賞になります。発表論文は、「PLAG1 enhances the stemness profiles of acinar cells in normal human salivary glands in a cell type-specific manner」で、唾液腺腫瘍の初期組織発生のメカニズムの一端を明らかにするものでありました。私は令和2年3月に岩手医科大学大学院歯学研究科を修了後、東北大学周術期口腔健康管理部の医員となりましたが、岩手医科大学在籍時にまとめた学位論文がこの様な形で評価頂けたことを大変嬉しく思っています。

最後に、ご指導を賜りました入江太郎教授、衣斐美歩特任講師、佐藤泰生講師をはじめ病理学講座の先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

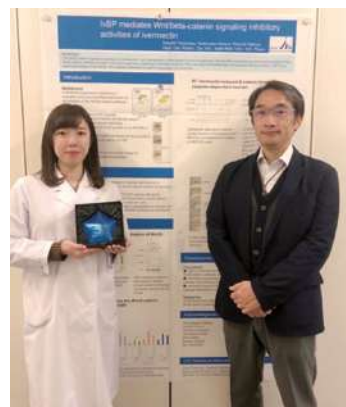
（文責：東北大学 周術期口腔健康管理部 森（後藤）弓里子）

大学院薬学研究科博士課程4年生の米澤 穂波 さんが 日本癌学会学術総会で JCA 若手研究者ポスター賞を受賞しました

大学院薬学研究科4年生の米澤穂波（臨床薬学講座情報薬科学分野）が、第80回日本癌学会学術総会（9月30日～10月2日：横浜市）で抗がん剤の新規標的分子について発表し、JCA若手研究者ポスター賞を受賞しました。

がん分子標的治療薬は躍進の著しい分野ですが、その多くはキナーゼを標的としています。キナーゼ以外の治療標的の開拓が、この分野の更なる発展のための喫緊の課題と考えられています。ノーベル賞受賞医薬品イベルメクチン（抗寄生虫薬）には、抗腫瘍効果があることが知られていますが、直接の作用点は不明でありました。米澤は、化学反応を用いてイベルメクチンを磁気ビーズに固定化し、同化合物に結合する細胞内因子を探索しました。その結果、イベルメクチンやその類縁化合物に特異的に結合するivermectin-binding protein (IvBP)を同定しました。IvBPの遺伝学的な機能破壊は、がん細胞の増殖に重要なWnt/ β -catenin経路を阻害することも明らかにしました。本研究による化合物に親和性を持つ新規標的分子の同定は、がん分子標的治療薬の今後の発展に大きく寄与すると考えられます。

（文責：臨床薬学講座 情報薬科学分野 教授 西谷 直之）



米澤さん、西谷教授

栄養部の造血幹細胞移植患者に関する取り組みが 岩手幹細胞移植研究会で厨記念賞を受賞しました



佐藤管理栄養士

この度、第15回岩手幹細胞移植研究会（令和3年8月28日開催）において、栄養部が「厨記念賞」を受賞しました。本賞は、岩手県において血液造血幹細胞移植（以後、移植）に携わった医療従事者の中で著しい貢献をされた方を称える賞で、本学第3内科の故厨信一郎教授の偉大な功績を永く顕彰するために設立されたものです。

栄養部では、造血幹細胞移植患者に対して移植前処置より無菌食を提供し、自宅での食事摂取状況や食事摂取に影響を及ぼす副作用の確認、今後予測される食欲低下に対応できるような情報提供と無菌食の栄養指導、移植前に減量が必要な患者に対しての減量指導を行っています。前処置から移植後早期の患者へは抗がん剤治療副作用に合わせた食事対応、同種移植後の患者へは退院後の食生活における感染予防で注意が必要な食品の栄養指導を行い、本受賞はこれらの活動を評価いただいた結果と思います。

入院期間が長く、生活環境や食事内容に一層の制限がある造血幹細胞移植患者に対して、不安なく治療中のお食事が楽しみだと思っていただけるよう今後も努めてまいります。

今回の受賞にあたり、血液腫瘍内科分野の伊藤薫樹教授をはじめ、岩手医科大学附属病院西6階A病棟医師、看護師、他の医療スタッフの皆様方に感謝申し上げます。

（文責：栄養部 管理栄養士 佐藤 侑子）

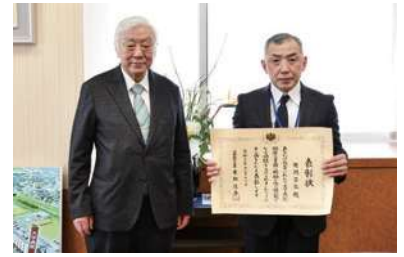
表彰の栄誉

歯科技工部の朝岡 昌弘 歯科技工士と西8階A病棟の伊東 由美子 看護師が 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労者）を受賞しました

歯科技工部の朝岡昌弘歯科技工士と西8階A病棟の伊東由美子看護師は、長年にわたり本学附属病院の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和3年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

朝岡歯科技工士は、歯科医療の専門技術者として技工士業務に従事し、岩手県の歯科保健医療に貢献されました。インプラント治療に長く携わり、技工物の質に対する患者さんからの評価が高いほか、歯科医師の論文作成や学会発表時の資料作成への協力も多くされる等、38年間の長きにわたり、岩手県の保健医療に貢献した功績が認められ、表彰されました。

伊東看護師は、38年間の長きにわたり外科分野、歯科分野、形成分野、耳鼻科分野等の特殊診療科において、専門的知識や技術を活かし、安心・安全な看護を実践し、質の高い看護ケアを提供されました。また、看護部委員会や係活動において、リーダーシップを発揮し、積極的に患者さんの満足度向上や入院支援に取り組まれました。そのほか、多くの看護学生の実習対応や後輩指導を行う等、医師やスタッフからの信頼は厚く、当院の医療・看護を支えた功績が表彰されました。

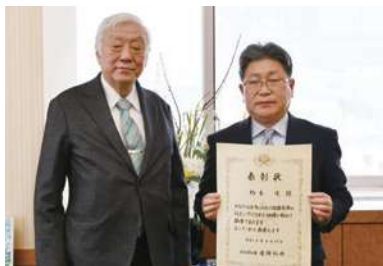


小川理事長と朝岡歯科技工士



伊東看護師と小川理事長

中央臨床検査部の柳本 実 技師長が 岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました



小川理事長と柳本技師長

中央臨床検査部の柳本実技師長は、長年にわたり本学附属病院の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和3年度の岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました。

柳本技師長は、37年の長きにわたり臨床検査業務に精励し、岩手県民の保健医療に貢献されたほか、本学附属病院中央臨床検査部内の様々な検査室勤務を経験し、幅広い分野を統括しながら、部内の調和を図りました。医師、他医療職との連携を密にしながら、高度化する臨床検査に対応したほか、検査技師の教育・育成にも熱心で、岩手県の保健医療に貢献した功績が認められ、表彰されました。

理事会報告（11月定例－11月29日開催）

1. 組織規程の一部改正について

2020年1月に文部科学省から示された「教学マネジメント指針」において、学修者本位の教育への転換を目的とした教学マネジメントの確立にあたり、教学IRを基盤とすることが求められていること、これまで本学は教学IRに関し、分析・情報提供等を行ってきた

が、今後学修成果の可視化、マネジメント層や各学部等への情報提供、分析支援等を更に充実する必要があることから、全学教育推進機構の下に教学IRセンターを設置し、組織規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日）

理事会報告（12月定例－12月20日開催）

1. 附属病院長の選任について

附属病院長 小笠原 邦昭（再任）

（任期 2022年4月1日から3年間）

2. 教員の人事について

医学部岩手県高度救命救急センター 准教授

高橋 学（前 救急・災害・総合医学講座救急医学分野 講師）

（発令年月日 2022年1月1日）

3. 組織規程の一部改正について

病院情報資産を一元的に集約して活用することにより、業務の効率化及び経営改善に資することを目的として、病院事務部に病院情報管理課を設置し、組織規程を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日）

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第7回目のご芳名紹介です。(令和3年10月1日～令和3年11月30日)

■ 法人・団体等 (2件)

<1,000,000>

医療法人 弘生堂 (長野県上田市)

<ご芳名のみ>

東京美装興業株式会社 (東京都新宿区)

■ 個人 (4件)

<1,000,000>

齊藤 和好 (役員)

<300,000>

佐藤 和佳子 (歯19)

<ご芳名のみ>

須貝 信 (父母)

金澤 義彦 (父母)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	144	77,541,110
在 学 生 ご 父 母	153	35,270,000
役員・名誉教授	15	17,370,000
教 職 員	13	1,270,000
一 般	6	22,150,000
法 人 ・ 団 体	98	64,745,481
合 計	429	218,346,591

(令和2年9月1日～令和3年11月30日現在)

創立120周年記念事業募金

第43回目のご芳名紹介です。(令和3年10月1日～令和3年11月30日)

■ 法人・団体等 (2件)

<3,000,000>

医療法人社団 恵仁会 三愛病院 (岩手県盛岡市)

<ご芳名のみ>

株式会社シミズ・ビルライフケア (東京都中央区)

■ 個人 (6件)

<2,000,000>

塚原 正典 (医19)

<1,000,000>

齊藤 恵子 (他)

金子 靖典 (医48)

<200,000>

古舘 きよ (一般)

<ご芳名のみ>

鈴木 一幸 (名誉教授)

大庭 英樹 (医46)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1,096	655,615,089
在 学 生 ご 父 母	925	538,820,000
役員・名誉教授	100	124,170,000
教 職 員	265	35,472,000
一 般	145	48,735,010
法 人 ・ 団 体	397	1,195,584,000
合 計	2,928	2,598,396,099

(平成26年6月1日～令和3年11月30日現在)

栄養部

栄養部は、栄養部長の佐々木章教授をはじめとして、管理栄養士15名（内丸メディカルセンター3名を含む）、調理師31名、病院総務課担当1名、委託会社（株）富士産業77名で構成されています。

栄養部の理念は「一人一人の患者に寄りそった安心安全な食事提供と治療に貢献できる栄養管理を実践する」を掲げています。

給食管理では、医師の指示に基づき、患者さんの病状や食物アレルギー、嗜好、咀嚼嚥下機能に配慮した食事の選択肢を設けています。調理方法では、調理師、委託会社のスタッフと連携し、適切かつ事前調理のクックチルなどの新しい技術の導入、冷温蔵配膳車を使用した適温配膳などの工夫を行っています。入院中においても季節を感じていただけるようにクリスマスや年越し料理など年間13回の行事食、緩和ケア病棟・小児科病棟・子どものこころ病棟への各種イベント食も提供しています。

新病院では、地産地消の取り組みの1つとして、矢巾町産

のお米「銀河のしずく」を使用する取り組みも始めています。

栄養管理では、管理栄養士が病棟担当とグループ制の両体制で、チーム医療参加による専門性を生かした意見交換をもとに栄養改善のサポートも行っています。

（管理栄養士 藤村 尚子）



東9階A病棟

東9階A病棟は、主に呼吸器内科、呼吸器外科、腎・高血圧内科、糖尿病代謝内科、膠原病内科の患者さんが入院しています。検査、手術、薬物療法、放射線療法、緩和ケアなど様々な治療が行われ、急性期から慢性期、緩和医療を対象とする患者さんが入院しています。看護部理念に基づき、やさしさと思いやりの心、倫理観を持って、患者さんが不安なく治療に臨めるよう援助しています。部署理念は「主体的に治療に参加できるよう、患者や家族の思いを聴き安全で安楽な看護を提供する」であり、個々に合わせた「気配り」のある看護を提供するために患者さんと関わる時間を大切にしています。各科ごとに定期的な多職種カンファレンスを実施し情報共有することで、患者さんにとっての最善を考えられる環境を整え

ています。これからも、患者さんに安心感をもって治療に臨んで頂けるように一人一人の声を大切に皆で努めてまいります。

（主任看護師 西館 千鶴）



岩手医科大学報編集委員

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	工藤 静子
松政 正俊	塩山 亜紀
齋野 朝幸	及川 弘美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
成田 欣弥	畠山 正充
西里 真澄	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
伊藤 奈央	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

特集は「がんセンター」をとりあげました。

がん患者さんを見ていて思う事は、がんの治療には発症した患部だけの対処だけではなく、他の抱えている病気や、そのための治療・薬など、複合的に対処していかなければならないという事の大変さです。

「がんセンター」は各診療科の先生や他職種の方々の連携、地域の病院との連携など、病院主導での患者ファーストでよりよいサポートを常に模索している姿勢はとても心強く、今後より重要になっていく事と思います。

（編集委員 畠山 正充）

岩手医科大学報 第539号

発行年月日／令和4年1月31日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／小川 彰

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111（内線5452、5453）

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



経食道心エコーガイドで行う 経カテーテル心臓病治療の最前線

はじめに

ここ数年で心臓病へのカテーテルインターベンション治療 (Structural Heart Disease Interventions : SHDI) は目覚ましく進歩しています。岩手医大では循環器医療センターから矢巾新病院となり、アンギオ装置付きハイブリッド手術室が独立し、さらに2室に増えました。循環器内科を中心としたハートチームによる SHDI 施行例数は飛躍的に増加し、新規治療も開始されています。実はこの SHDI のほとんどが経食道心エコー (TEE) ガイド下で行われています。

TEE ガイドの経カテーテル心臓弁膜症治療

最も治療数が多いのが、高齢石灰化による大動脈弁狭窄症への経カテーテル大動脈弁植込術 (TAVI) です。2019 年には生体弁機能不全例に、2021 年には透析例に適応となりました。麻酔科医による全身麻酔下で、インターベンション医が心カテ画像と TEE 画像を観察しながら行いますが、TEE は弁周囲逆流や合併症有無を迅速に判断する役割を担っています (図1A)。当院での TAVI は熟練スタッフにより年間約 180 例と全国トップクラスの数となっています。次に僧帽弁閉鎖不全症への経カテーテル僧帽弁クリップ術があります。開心術ハイリスク例においてハートチームで判断して行われます。全身麻酔 TEE ガイド下で大腿静脈から卵円窩穿刺してワイヤを通過させ、僧帽弁逆流部位をクリップする方法です。この治療はリアルタイム 3D - TEE 装置で行う事が施設認可条件の一つになっており、適切な部位をクリップするために 3D-TEE が非常に重要な任務を負っています (図1B)。



図1：A. 大動脈弁植込術、B. 僧帽弁クリップ術

TEE ガイドの経カテーテル心原性脳塞栓予防治療

最新の SHDI として心原性脳塞栓予防治療のための経カテーテル左心耳閉鎖術と卵円孔閉鎖術が挙げられます。全身麻酔 TEE ガイド下で大腿静脈から卵円窩や卵円孔をワイヤ通過させて治療します。心房細動によって生じる左房内血栓の 95% 以上は左心耳に生じます。通常は心房細動の塞栓症発症リスクに基づき抗血栓薬治療をしますが、抗血栓薬による大出血例や出血リスク (HAS-BLED) が高い例で左心耳閉鎖術が適応になります。治療時間は1時間以内で、左心耳閉鎖栓サイズの最終選択と左心耳への血流遮断の評価に TEE は必須のモニタリング法です (図2A)。次に卵円孔開存症は約5人に1人の頻度で認め、この中で逆シャント例では深部静脈血栓から奇異性脳塞栓を生じる事があり、ブレインハートチーム検討を経て卵円孔閉鎖術が考慮されます。治療時間は30分以内で、TEEを見ながらデバイス留置する重要な役割を担っています (図2B)。

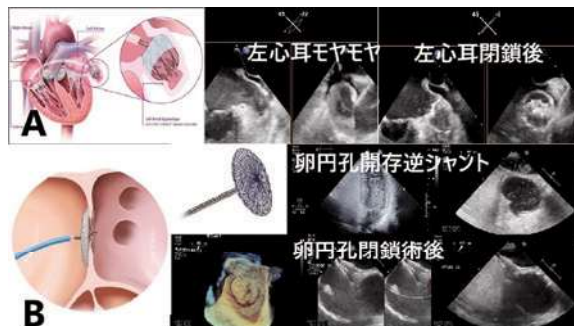


図2：A. 左心耳閉鎖術、B. 卵円孔閉鎖術

おわりに

直近では当院が北海道東北で唯一、重症肺動脈弁閉鎖不全症への経カテーテル肺動脈弁植込術の施行施設として認可されました。さらには、三尖弁閉鎖不全症へのクリップ術や弁植込術の追加適応も予想されています。この SHDI における術中 TEE、検査室 TEE、外科的弁形成術中 TEE など、私と循環器内科医3名の4名体制で行っていますが、当院での総合的な心臓病治療は岩手県や北東北における最後の砦という気概を持って日々取り組んでいます。